

平成 21 年度 練馬区一般廃棄物に関する調査報告（概要）

1.はじめに

循環型社会形成のためには効率的なごみの分別・収集の仕組みづくりが重要であり、そのためには家庭および事業所等から排出される資源・ごみの量、どういったもので構成されているのか、どういった状態であるのかを把握することが不可欠です。

練馬区(以下「区」といいます。)では、継続的で体系的な実態調査を基にした基礎資料の収集・分析を目的として、平成 14 年度から資源・ごみについての集積所での排出ならびに分別状況の実態を調査しています。

平成 22 年度には、一般廃棄物処理基本計画の改定を予定しており、区内の資源・ごみの量、区民や事業者の意識・意向などに関する基礎データを把握するため、次の調査を行いました。

- 排出原単位調査
- 組成分析調査
- 区民アンケート調査
- 事業所アンケート調査

端数処理の関係上、グラフの合計値が 100%にならない場合や、合計と内訳が一致しない場合があります。

2.排出原単位調査

(1)調査地点

調査地域は、事業系ごみの混入がない集積所を選定しました。住居形態別に偏りがないう、戸建て住宅 4 カ所と低層集合住宅混合地域 2 カ所を選定しました。

(2)調査期間

平成 21 年 10 月 19 日(月)～24 日(土)の 6 日間

(3)調査方法

調査員を集積所に配置し、可燃ごみを排出する区民に対して世帯人数と何日分のごみかを聞き取り、ごみの重量を計量しました。また、1 人世帯(若年層)のデータを補完するためのワンルーム調査と、可燃ごみ以外の排出原単位を把握するためのごみ量計量調査を実施しました。

(4)分析方法

排出原単位調査とワンルーム調査より、可燃ごみの調査結果を家族人数別(1 人世帯(若年層)、1 人世帯(若年層以外)、2 人世帯、3 人世帯、4 人以上世帯)に集計し、排出原単位を推計しました。ごみ量計量調査結果から、可燃ごみに対する各分別区分の割合を算定し、可燃ごみの排出原単位にこの割合を乗じて、可燃ごみ以外の排出原単位を推計しました。

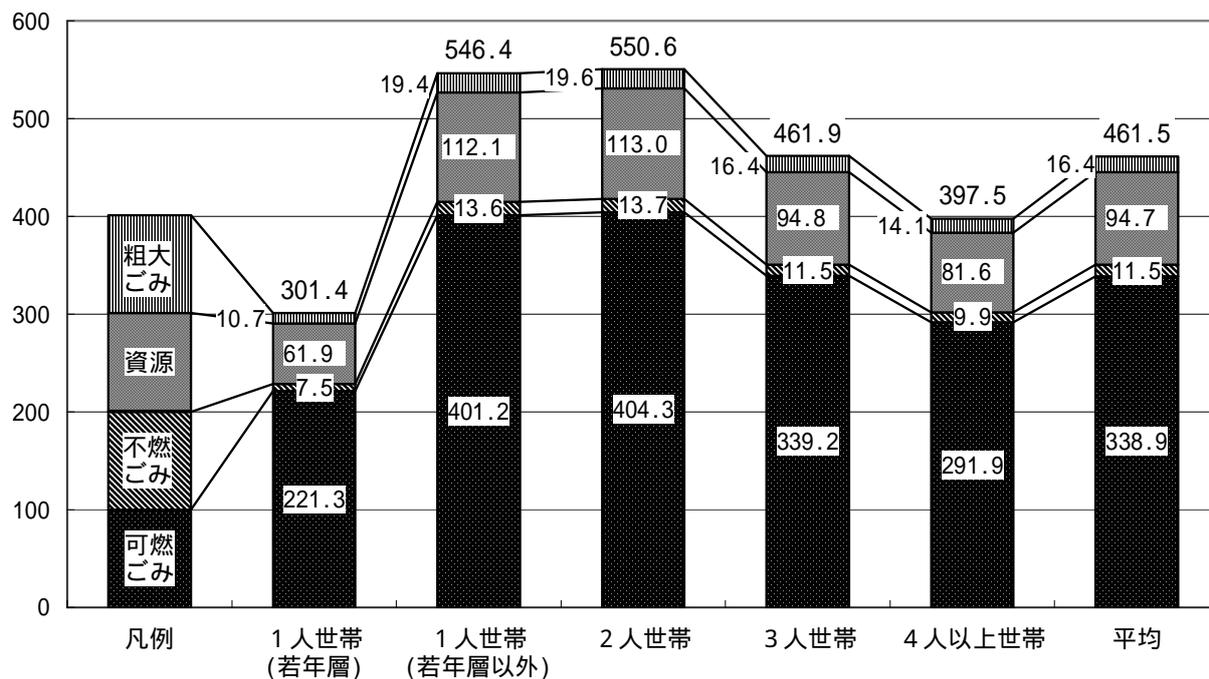
【排出原単位】

世帯人数別の排出原単位は、1人世帯(若年層)が301.4g/人日、1人世帯(若年層以外)が546.4g/人日、2人世帯が550.6g/人日、3人世帯が461.9g/人日、4人以上世帯が397.5g/人日、平均で461.5g/人日です。

分別区分別の排出原単位は、可燃ごみが338.9g/人日、不燃ごみが11.5g/人日、資源が94.7g/人日、粗大ごみが16.4g/人日です。

なお、処理困難物は、可燃ごみに2.1g/人日、不燃ごみに0.7g/人日、合計で2.8g/人日含まれています。

単位(g/人日)



3.組成分析調査

(1)調査地点

調査地点は、住居形態別に偏りがないう、戸建て中心地域、戸建て・低層集合住宅地域、中低層住宅・商業混在地域、商業地域・高層住宅地域から選定しました。

(2)調査時期

平成21年10月19日(月)~24日(土)の6日間

(3)調査対象の資源・ごみ

調査期間中に出された「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「容器包装プラスチック」

(4)調査項目

集積所に排出されたごみの袋や容器の種類

収集した資源・ごみの総重量

組成分類項目別の重量

(5)雑紙調査

平成21年12月7日(月)・8日(火)の2日間に、集積所で回収されている雑誌を対象に、雑誌・書籍以外の雑紙がどの程度含まれているか調査しました。

【可燃ごみ】

47.4%を生ごみが占めています。

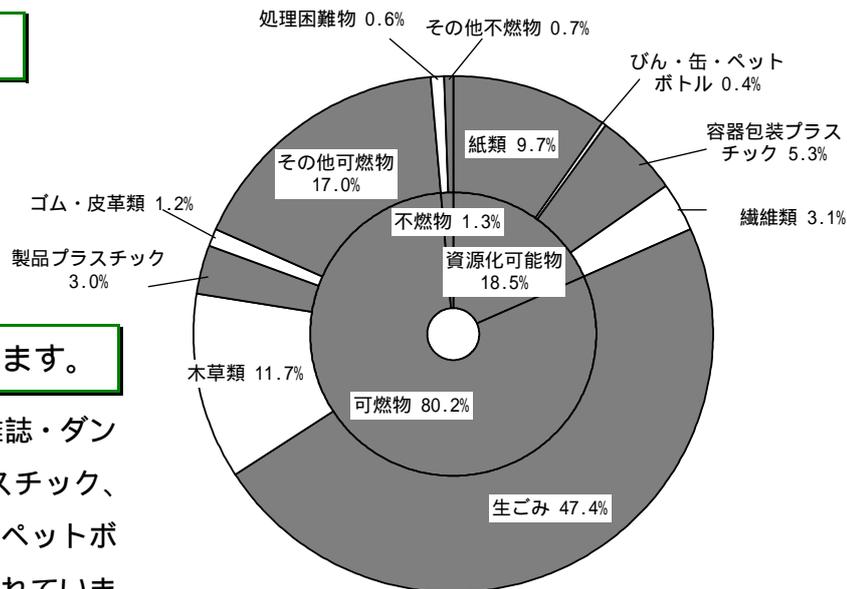
最も多いのは生ごみで、47.4%を占めています。このうち賞味期限が切れた食品など利用せずに捨てられているものが4.1%です。

資源化可能物が18.5%含まれています。

区が分別回収を行っている新聞・雑誌・ダンボールなどの古紙類、容器包装プラスチック、街区路線回収を行っているびん・缶・ペットボトルなど資源化可能物が18.5%含まれています。内訳は、紙類が9.7%、びん・缶・ペットボトルが0.4%、容器包装プラスチックが5.3%、繊維類が3.1%です。

不燃物と処理困難物が合わせて1.3%含まれています。

処理困難物が0.6%、その他不燃物が0.7%含まれています。



【不燃ごみ】

資源化可能物が23.7%含まれています。

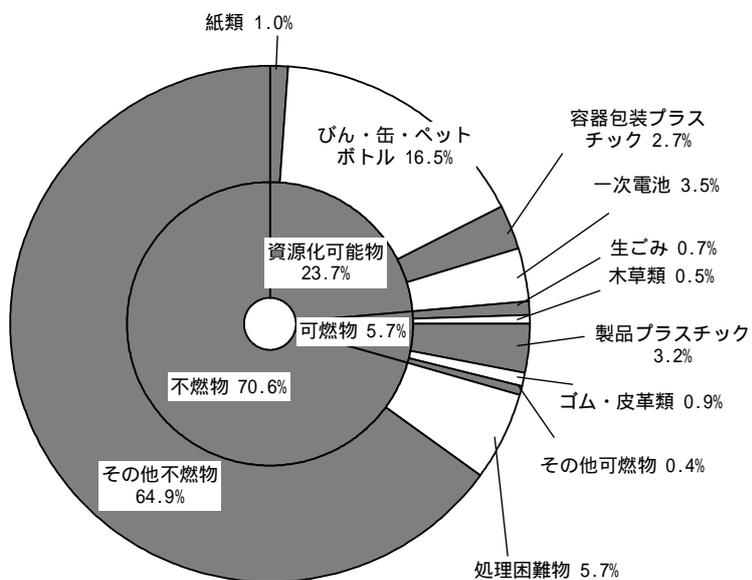
資源化可能物が23.7%含まれています。内訳は、紙類が1.0%、びん・缶・ペットボトルが16.5%、容器包装プラスチックが2.7%、一次電池が3.5%です。

可燃物が5.7%含まれています。

可燃物が5.7%含まれています。内訳は、生ごみなど従来からの可燃物が1.6%、平成20年10月から、可燃ごみに分別変更になった製品プラスチックとゴム・皮革類が4.1%です。

処理困難物が5.7%含まれています。

中身の入ったスプレー缶・コンロ用カセットボンベ・ライターなどの処理困難物が5.7%含まれています。



【容器包装プラスチック】

容器包装プラスチック以外の資源化可能物が 5.4%含まれています。

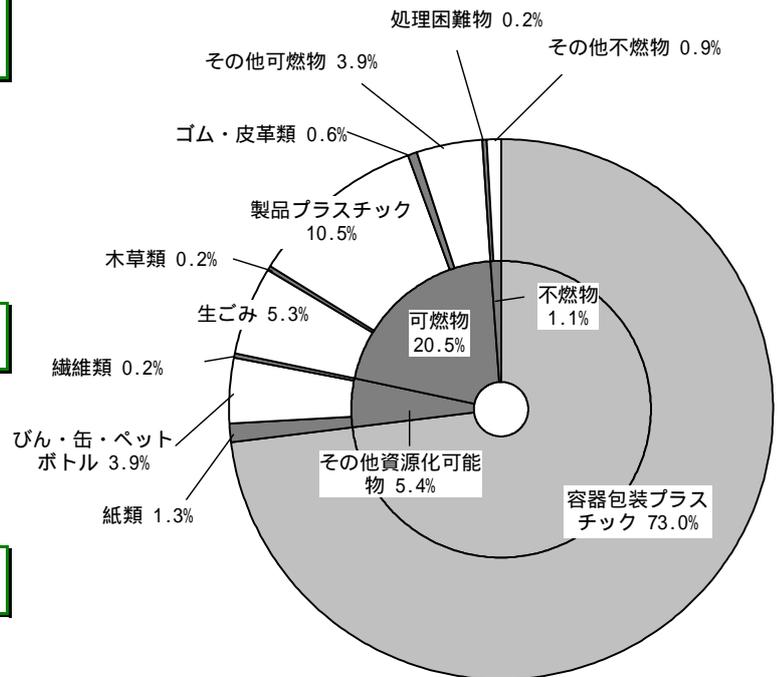
容器包装プラスチック以外の資源化可能物が 5.4%含まれています。内訳は、紙類が 1.3%、びん・缶・ペットボトルが 3.9%、繊維類が 0.2%です。

可燃物が 20.5%含まれています。

可燃物が 20.5%含まれています。内訳は、製品プラスチックが 10.5%、生ごみが 5.3%、

不燃物が 1.1%含まれています。

不燃物が 1.1%含まれています。内訳は処理困難物が 0.2%、その他不燃物が 0.9%です。



【雑紙類】

禁忌品や異物を除く雑誌類の内訳は、雑誌・書籍が 92.8%、紙製容器包装が 2.6%、OA用紙が 1.5%、投げ込みチラシが 1.6%、その他リサイクル可能な紙が 1.5%であり、雑紙(雑誌・書籍以外)の割合は 7.2%です。

単位(kg)

	雑誌・書籍	紙製容器包装	OA用紙	投げ込みチラシ	その他リサイクル可能な紙	紙類禁忌品	紙類以外の異物	合計
12月7日	456.10	5.51	2.15	2.60	2.75	0.20	0.01	469.32
12月8日	418.90	19.40	11.70	12.25	11.45	1.45	0.02	475.17
合計(禁忌品・異物含む)	875.00	24.91	13.85	14.85	14.20	1.65	0.03	944.49
割合(禁忌品・異物含む)	92.6%	2.6%	1.5%	1.6%	1.5%	0.2%	0.0%	100.0%
合計(禁忌品・異物除く)	875.00	24.91	13.85	14.85	14.20	-	-	942.81
割合(禁忌品・異物除く)	92.8%	2.6%	1.5%	1.6%	1.5%	-	-	100.0%

4.区民アンケート調査

(1) 調査期間

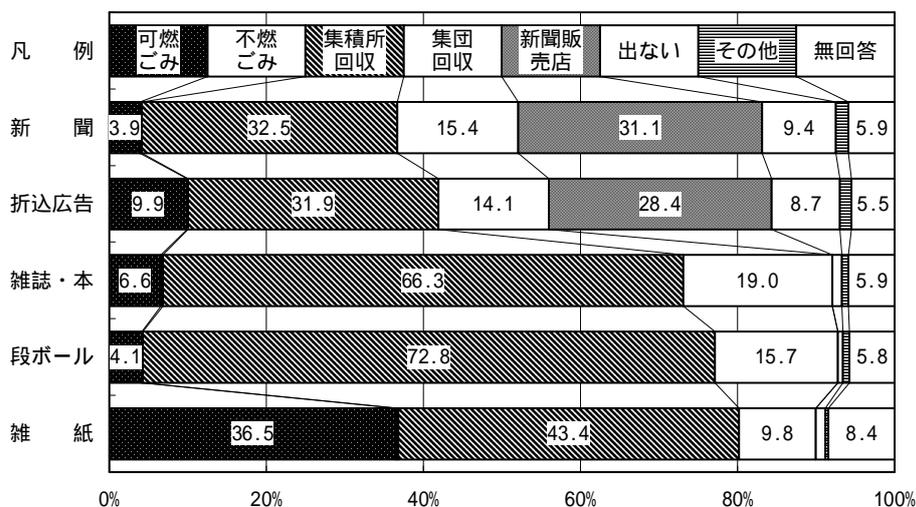
平成21年10月26日に調査票を発送し、11月16日到着分までを有効回答として、集計分析しました。

(2) 調査票の回収状況

- 発送数 2,000 票
- 有効発送数 1,962 票 (宛先不明等で、38 票返却)
- 回収数 747 票
- 有効回答数 747 票
- 有効回収率 38.1%

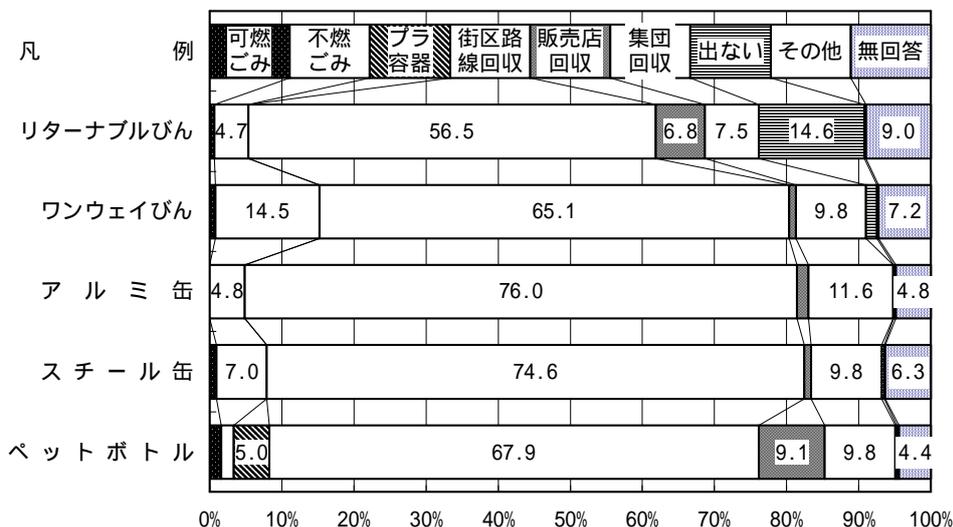
【紙類の処理方法】

新聞、折込広告、雑誌・本、段ボールについては、集積所回収、集団回収、新聞販売店回収などでリサイクルされ、ごみとして出している割合は少なくなっています。しかし、雑紙については、ごみとして出している割合が高くなっています。



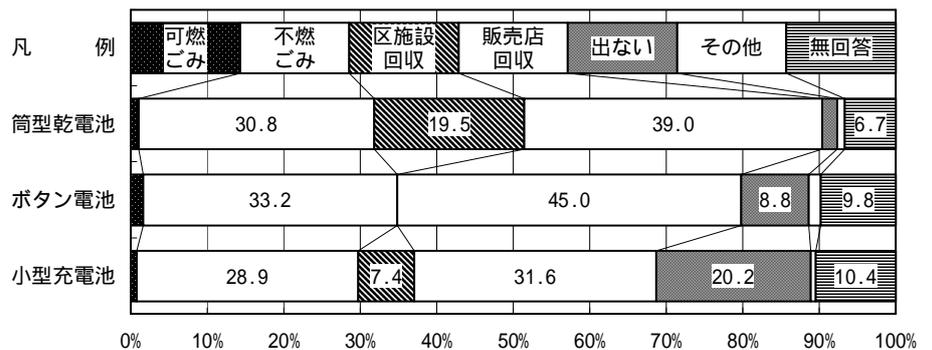
【びん・缶・ペットボトルの処理方法】

リターナブルびん、ワンウェイびん、アルミ缶、スチール缶、ペットボトルについては、街区路線回収などでリサイクルされています。ごみとして出している割合は、ワンウェイびんとスチール缶が、他の品目に比べて高くなっています。ペットボトルは一部が容器包装プラスチックとして出されています。



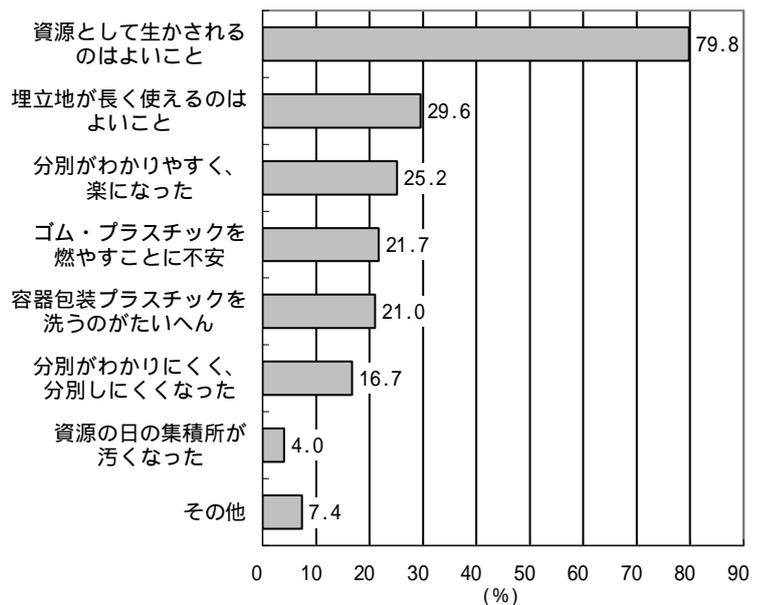
【電池の処理方法】

筒型乾電池、ボタン電池、小型充電電池のいずれも、ごみとして出している割合は3割程度となっています。また、小型充電電池の一部は筒型乾電池の区施設回収に出されています。



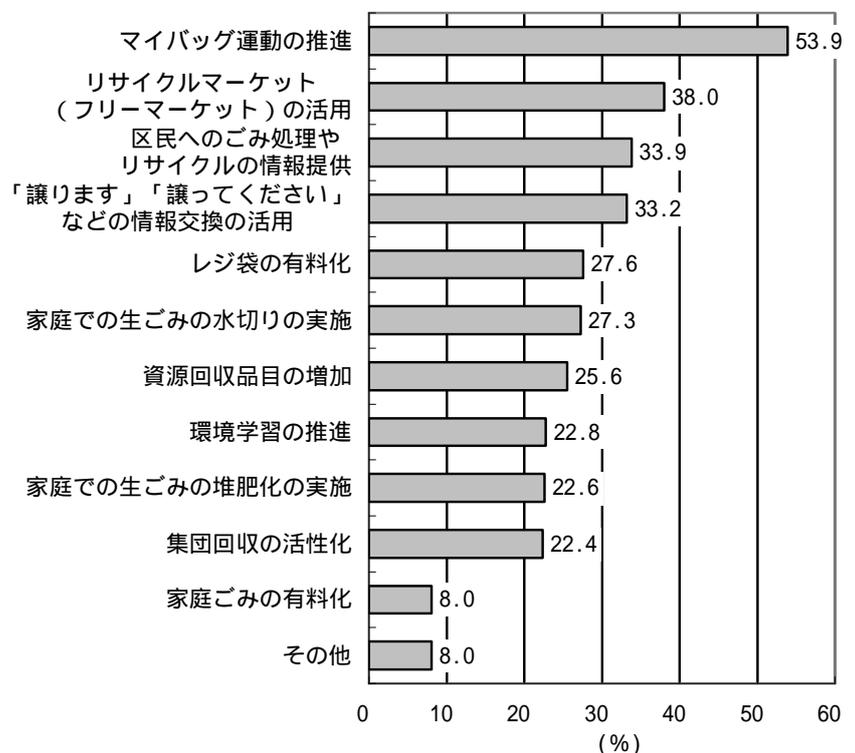
【分別変更の感想】

分別変更の感想は、『資源として生かされるのはよいこと』が79.8%で最も多く、次いで、『埋立地が長く使えるのはよいこと』が29.6%、『分別がわかりやすく、楽になった』が25.2%、『ゴム・プラスチックを燃やすことに不安』が21.7%、『容器包装プラスチックを洗うのがたいへん』が21.0%、『分別がわかりにくく、分別しにくくなった』が16.7%、『資源の日の集積所が汚くなった』が4.0%、『その他』が7.4%の順です。(複数回答)



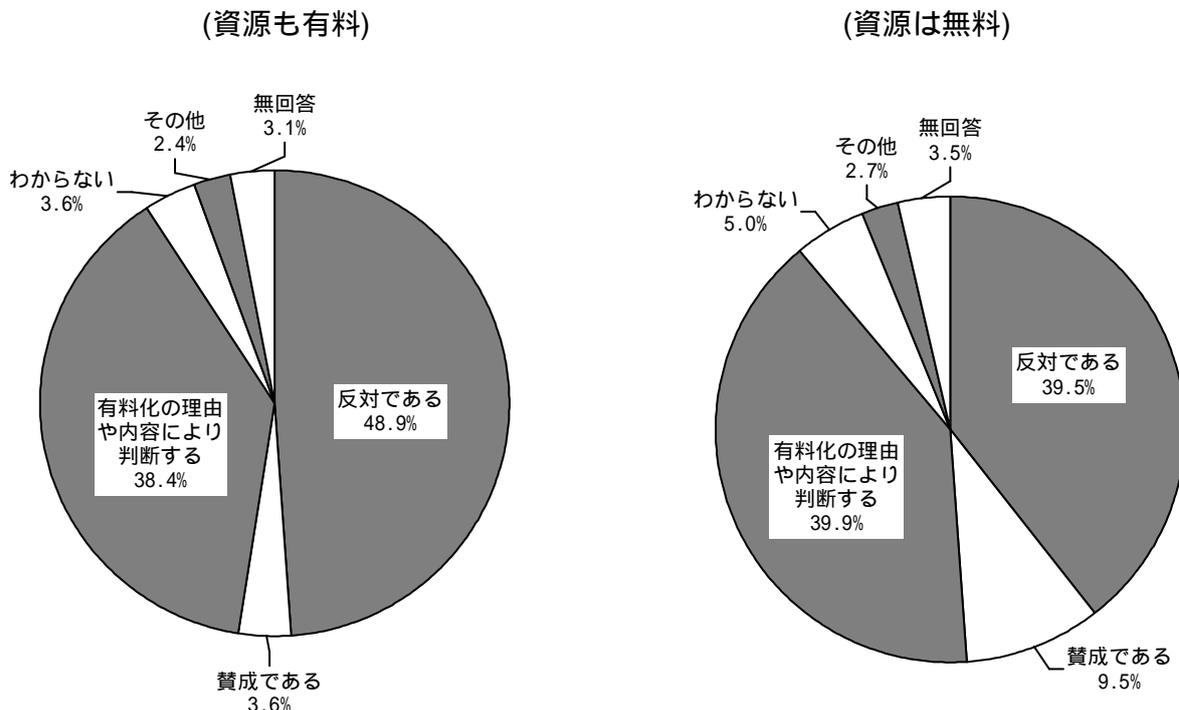
【ごみを減量化するために効果的な対策】

ごみを減量化するために効果的な対策は、『マイバッグ運動の推進』が53.9%で最も多く、次いで、『リサイクルマーケットの活用』が38.0%、『ごみ処理やリサイクルの情報提供』が33.9%、『「譲ります」「譲ってください」などの情報交換の活用』が33.2%、『レジ袋の有料化』が27.6%、『家庭での生ごみの水切りの実施』が27.3%、『資源回収品目の増加』が25.6%、『環境学習の推進』が22.8%、『家庭での生ごみの堆肥化の実施』が22.6%、『集団回収の活性化』が22.4%、『家庭ごみの有料化』が8.0%、『その他』が8.0%の順です。(複数回答)



【家庭ごみの有料化】

資源も有料にした場合は、『反対』が 48.9%で最も多く、次いで、『有料化の理由や内容で判断する』が 38.4%、『賛成』が 3.6%の順です。資源は無料にした場合は、『有料化の理由や内容で判断する』が 39.9%で最も多く、次いで、『反対』が 39.5%、『賛成』が 9.5%の順です。



5.事業所アンケート調査

(1)調査期間

平成 21 年 11 月 2 日に調査票を発送し、11 月 24 日到着分までを有効回答として、集計分析しました。

(2)調査票の回収状況

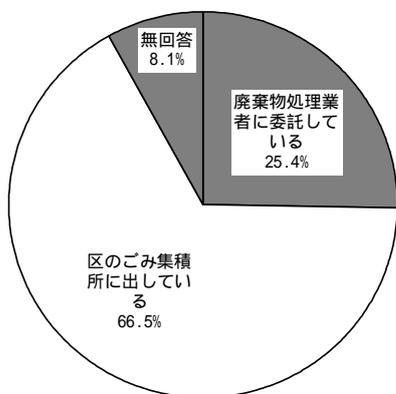
- 発送数 3,000 票 (業種と規模を考慮して抽出)
- 有効発送数 2,676 票 (宛先不明等で、324 票返却)
- 回収数 1,058 票
- 有効回答数 1,058 票
- 有効回収率 39.5%

【主なごみの処理方法と委託している理由】

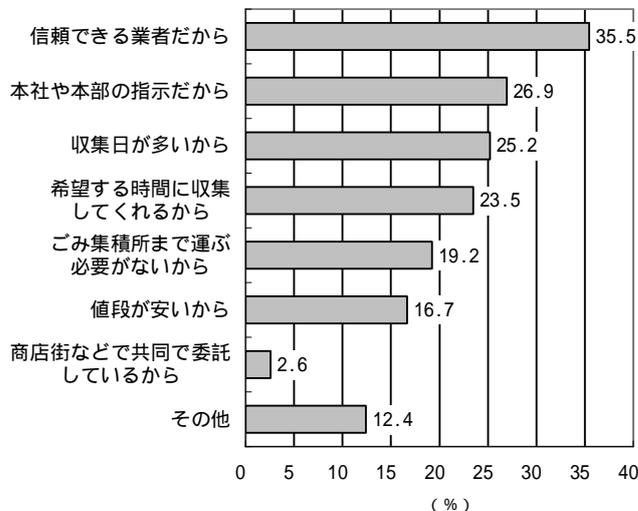
主なごみの処理方法は、『区のごみ集積所に出している』が 66.5%で、『廃棄物処理業者に委託している』が 25.4%です。

委託している理由は、『信頼できる業者だから』が 35.5%で最も多く、次いで、『本社や本部の指示だから』が 26.9%、『収集日が多いから』が 25.2%の順です。(複数回答)

(主なごみの処理方法)



(委託している理由)

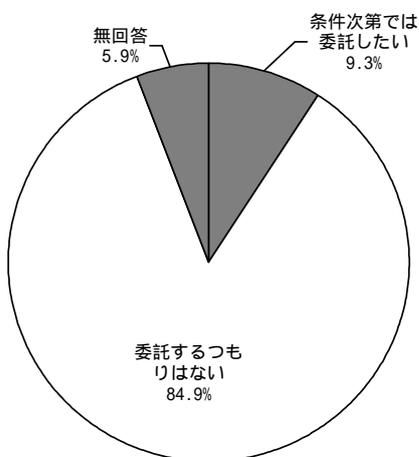


【一般廃棄物処理業者への委託意向と委託条件】

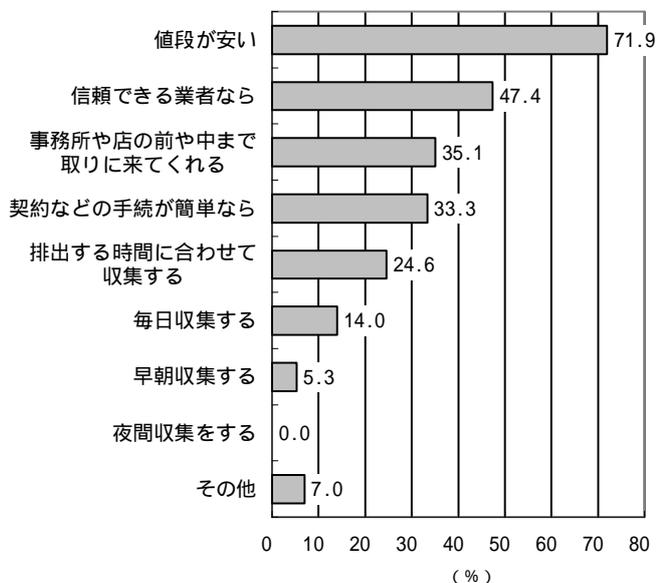
一般廃棄物処理業者への委託意向は、『委託するつもりはない』が 84.9%を占め、『条件次第では委託したい』が 9.3%です。

一般廃棄物処理業者への委託条件は、『値段が安い』が 71.9%で最も多く、次いで、『信頼できる業者なら』が 47.4%、『事務所や店の前や中まで取りに来てくれる』が 35.1%の順です。(複数回答)

(委託意向)



(委託条件)



平成 22 年 3 月発行
 発行 練馬区
 編集 環境まちづくり事業本部 環境清掃部 清掃管理課
 Tel 03-3993-1111 (代) 〒176-8501 練馬区豊玉北 6-12-1



SINCE2005